

令和6年度まちづくり懇談会 米沢地区

日時 令和6年10月4日（金）
午後7時00分～午後8時30分
場所 米沢地区コミュニティセンター

学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
学校のあり方について市PTA連合会でも話題になっており、学校の再編に対して児童数の多い学校の役員と少ない学校の役員では関心度の差があるように感じている。米沢地区は小中学校で通学する学校が全員同じではない特殊な地区だと感じている。その中で地域などでの対話において地域性を考慮していただけているのか。そして、現役の生徒、学生や園児を育てていらっしゃる親の皆さんにも会議に出席し意見を述べていただきたい。	（市長） 先日3校の運動会を見に行く機会があった。生徒が多い学校と少ない学校、そしてその中間くらいの学校、それぞれの良さのある運動会だったと感じている。どの学校も地区の皆さんが学校を大切に考え、愛していただいていると感じた。その中で学校再編についての温度差があるのは言われるとおりであり、現在の出生数の状況から生徒が少なくなりどんな状況になるか、今から議論しておくことが必要。 市内の学校の建替えは、すぐにではなく数年かかる事業なので、その間に茅野市の学校のあり方の論議をしておく必要があると思う。学校再編については、決め打ちしているわけではなく、皆さんからいろんな意見をお聞きして、こういった形がいいのか導き出したいと考えている。議論をせずに年数を経過していけば、いずれは何らかのアクションを起こさなくてはならなくなる。1地区の課題ではなく茅野市全体の課題として検討していただきたいと考えている。
新聞報道等を見て心配している方もいる。先に統廃合のことばかりが話題になったり、登下校がどうなるなどの課題が先行してしまい、子どもにとっての学校の学びがおざなりになっている感じがする。	（学校教育課長） 今後、保護者の皆様からご意見をいただくように保育園の保護者、小学校PTAの皆様と地域対話を複数回実施しようと計画している。児童、学生が減少することが予測できるなかで皆さんとお話しする時間、機会を設けたいと考えている。 （教育長） 茅野市の学校教育がこれからどうあったらいいかみんなで話し合っ、その中でどうやって学校を支えていくか、地域の学校にしていくか、もう一度問い直す時だと思う。市内何校ありきではなく、もう一度原点に戻って学校とは何かを考えていきたい。学校のこれからのあり方、茅野市の学校をどうするかということに子どもの意見を聞く場面を作って、子どもたちが自分たちで未来を、茅野市を作ってくんだという気持ちになってもらいたい。

通学バスについて

意見要旨	説明・回答要旨
以前お願いした、通学バスの米沢線の実施と、中学生の通学定期券も補助していただき感謝する。現在20名を超える生徒が利用させていただいている。親の送迎を頼らず自主性を持って通学する環境を整えていただき感謝する。事業者の運転者の方の確保も難しいと聞いているが、事業の継続をお願いする。	今後も事業継続のために努力していく。

人口減少対策について

意見要旨	説明・回答要旨
子育て世代の移住の話があった。私の家も、私の周りの家の場合もそうだが、子どもが県外（市外）の学校に行ったまま故郷に帰ってこないという現実がある。茅野市に魅力を感じていない。帰ってこないという若者世代が非常に多い。やはりまちに潤いが必要なのではと考えている。地元で働けるような企業をもっと誘致したり、人を増やすのであれば、住宅地をもう少し整備して環境をよくするような考えはあるか。	（市長） 現状としては、グリーンヒルズビレッジと旭ヶ丘住宅団地がようやく完売できた。30代、40代の方に多く購入していただくことができた。現在市は、宅地造成を実施する余力がなく、民間で宅地造成をしていただいている状況。働くところがないと移住してきていただけないので企業誘致も行っているが、若者の就労希望職種が多様化しており、都会でしか就職できない職種をいかにして地方へ誘致できるか考えている。デジタル田園健康特区を活かしてIT関連の方たちへ関心を持っていただいて企業誘致へ結びつけていければと考えている。農業、商業も地元の若者たちと来てくれた若者たちが交流していろいろな場所で茅野市を盛り上げてくれている。様々なアイデアを若者たちが考えてくれている力が素晴らしいと感じている。

長野県中が人口減で同じような状況にありながらも飯田近辺は帰ってくる若者が多いと聞いている。何が違うのかと思うが、やはり情報発信ができるかどうかというところと、小中高の自分が過ごしたこの諏訪の地域、茅野の地域でどれだけ良い思い出が作れたかだと思う。学校の行事だけで子どもが育つというものではないが、学校を地域が支えないと先生たちもいっぱいっばいで持たない。縦割りなので、学校と行政は違うとは思いますが、何かしらできないのかなと思う。とにかく子どもたちがここに残って欲しい。私たちがじいさんになったときに子どもが誰もいない地域なんて見たくもないので、それには今やらないと手遅れになる。

(政策監)

自分の表現が自由にできと、ギスギスしないで潤いのある社会になってくると思う。若い人たちの話をよく聞いて、どうしたら暮らしやすいのか確認していくと区の担い手になってくれるかもしれない。同じ地域に住んでいるからということでの義務的なものではなくて、楽しみたいといった感性で、生きがい、やりがいを感じながら区の役やコミュニティ、地域づくりに参加してもらいたいと思う。そのためにも若者の意見提言を聞きながらまちづくりをしていけたらと考えている。

通学路の安全対策について

意見要旨	説明・回答要旨
北部中学校の通学路に関しては、いろいろお力添えをいただいて少し進んでいる。企業の誘致ということで北山方面に会社が建設されれば塩沢あたりでは自動車の交通量が多くなる。企業誘致で仕事もできて人も増え良いと思うが、その前に子供たちの安全を考えていただきたい。	(市長) 企業が来る話は進行中だが、来た場合はかなり多くの車が区内を通るのでないかと思う。特に塩沢区は多いのではないかと心配しているところ。県の建設部とも話を進めている。 (建設企画課長) 大型企業が来る前に、昨年、湯川バイパスが開通をしているが、その中でもすでに塩沢区内に観光客の車が進入しているということで、区からも昨年要望をいただき、県とご相談したところ。まずは湯川バイパスと諏訪茅野線の交差点に大型看板を早急に整備して、ビーナスライン、エコラインへきちんと抜けていかれるように県と調整している。今後、大型企業が来る中で、塩沢区内の方に車が入って行くことは予想されるので、そうならないような対策を考えていきたいと思っている。もう少し検討する時間をいただきたい。

公共施設（プール、スケートセンター）について

意見要旨	説明・回答要旨
子どもから市のプールが閉鎖になりスケートセンターもなくなり、冬の授業にあったスキー教室もなくなって楽しみがなくなると言われた。どんどん茅野市内の施設が無くなって悲しんでいた。私が茅野市内で学生生活してきた体験を子どもにもさせてあげたいと思っていたが、そうした話を子どもから聞かされてショックを受けた。それに加えて学校の統廃合の話があり、財政が大丈夫なのか心配になった。子どもからそんな話が出るということは、県外（市外）に出ていったら戻ってこないことは当たり前の話で、どんどん子どもの楽しみがなくなり魅力がなくなっているのが現状。5年後10年後どうなっているのかお聞きしたい。	(市長) 5年後10年後どうなっているかは、市民次第だと思っている。合併をしない選択をしたのは市民。たとえ話だが、合併をしていればスケートセンターは残せたと思う。合併しなかったのも、現在市民の皆さんへどのようにしていこうか投げかけている。子どもから言われたという話は私も嘆かわしいと思う。子どもたちの未来にツケを回さないように考えていくことも今の私たちがやらなくてはならないことです。スケートセンターをはじめ公共施設の経年劣化に伴う修繕維持管理費が大きくかかる今後について行財政審議会の答申を求めた。